

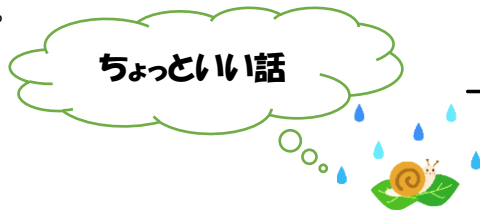
「はらぺこあおむし」から思うこと



研究主任 若林 潤子

先月、アメリカの絵本作家エリック・カールさんが91歳で亡くなったというニュースを耳にしました。エリック・カールさんといえば、「はらぺこあおむし」を思い出す人が多いことでしょう。卵から生まれたちっぽけなあおむしが、とても腹ペコで食べ物を探しに出ます。毎日、りんご、梨、すもも等、様々な食べ物を食べて太っていき、しいには食べすぎてお腹を壊してしまいます。でも、その後「きれいな緑の葉」を食べたことで回復して元気になり、最後には、それは美しい蝶へと変身するというストーリーです。私は、このあおむしの成長に様々な言語環境の中で育つ子供の姿を重ねてしまいます。子供達は、本、会話、テレビ、ゲーム等、様々な媒体から多くの言葉を目にしたり、耳にしたりして多くの言葉を学んでいきます。みんなが使っているから、面白い言い方だから、言いやすいからと、「ウケる」「ヤバい」・・・何でもかんでも真似して吸収していったなら、あおむしのようにお腹（心）を壊すのではないかと心配です。あおむしは、「きれいな緑の葉」を食べて、きれいな蝶になりました。子供達にもぜひ、自分らしいきれいな言葉を、具体的な表現をたくさん吸収し、豊かな言葉を身に付けて成長してほしいと思います。

本校では、相手に自分の考えを分かりやすく説明するための「語彙力」を育てたいと考えています。主語や述語を省かない会話、様子を具体的に説明する言葉を日々の積み重ねや習慣で取り入れていくことで、子供達に一つでも多くの「語彙」が身に付くことを願っています。



上学年としての4年生

4年2組担任 横田光平

4月からランチルームでの給食が始まり、最初は緊張していた子供たちも少しずつ慣れてきた様子です。

昨年度（3年生の時）は6年生のお兄さんお姉さんに給食を運んでもらっていたみんなも、今年度からは給食を運んであげるお兄さんお姉さんの立場になりました。給食をこぼさないように気を付けて1年生教室へ向かう表情はまだまだ不安そうですが、1年生教室から出てくる時の一仕事終えた職人のような表情からは頼もしさを感じます。中には一礼して教室から出て来る児童も見られ、立っただけで手本になれる上学年に近づけているなど嬉しくなります。

ボランティア精神とエネルギーに満ち溢れた今年度の4年生。誰かのために動く事のできる心を持った子供たちの成長を近くで見ることができて幸せです。

